



News Letter

第 29 号 : 発行日 平成 28 年 3 月 31 日

腫瘍マーカー検査



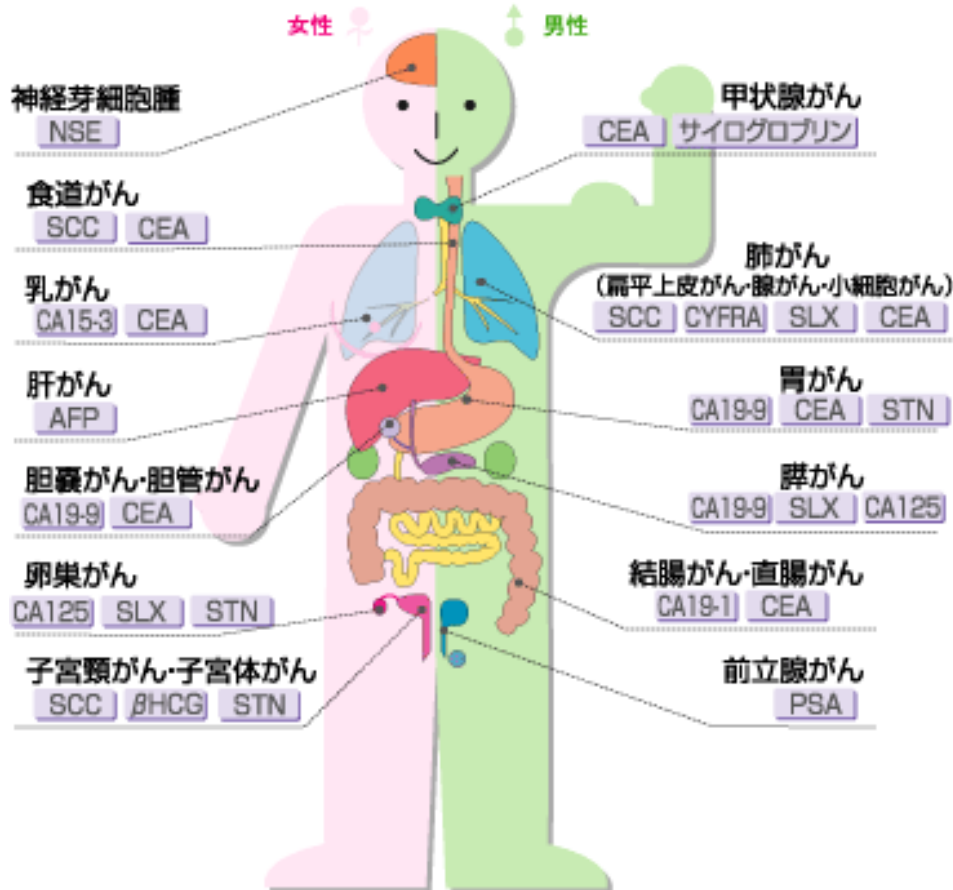
【腫瘍マーカーとは】

体の中にがんができると、血液や尿の中に増える物質があります。これらの物質を**腫瘍マーカー**といいます。血液検査で、その物質がどの程度存在するかを調べることにより、**がん**の可能性を探ることができます。

【腫瘍マーカーの種類】

腫瘍マーカーには、図-1 のように多くの種類があります。その中には、「臓器特異性」（どこにできた**がん**かを特定できる）が高いマーカーと低いマーカーがあります。特異性が高いマーカーには、PSA（前立腺がん）やAFP・PIVKA II（肝臓がん）などがあります。特異性が低いマーカーであっても、いくつかを組み合わせると疑わしい部位をある程度絞り込むことができます。

図-1 腫瘍マーカー抗体一覧



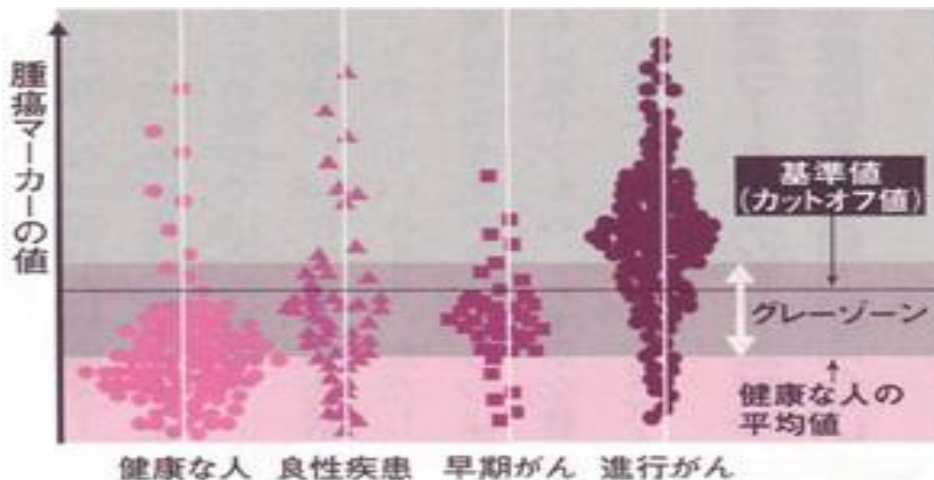
(出典：コスモ・バイオ株式会社 HP 「腫瘍マーカー抗体」)

【マーカー検査値の解釈】

腫瘍マーカーの結果は、一般に健康な人の検査値を基に決められる「基準値」と比較して判定されます。基準値以下であれば陰性、基準値を超えた場合は陽性です。ただし、陽性と判定されたからといって、**がん**であるとは限りません。

CEAは喫煙者で基準値を超えることがありますし、PSAも前立腺肥大で高くなる傾向があります。逆に、**がん**であっても腫瘍マーカーが高くない場合もあります。

図-2 「腫瘍マーカー値の分布」



(出典：かながわ・がんQOL研究会 『わかりやすい腫瘍マーカー』 2006年)

※「基準値」は、**がん**の可能性のある程度高い人を選び出すために定められていますが、その付近の「グレーゾーン」には、健康な人から進行がんの人まで様々な人が含まれています（図-2 参照）。

【まとめ】

以上、腫瘍マーカーの結果だけで**がん**を発見することは難しいのが現状です。とはいえ、腫瘍マーカー検査で陽性であった場合は、医師と相談のうえ、CT・MRI・内視鏡などの精密検査を受けるようにしてください。その結果、自覚症状が出る前に早期に発見できることもあります。

がんのスクリーニングを目的に、年1回の健康診断に腫瘍マーカーを取り入れてみてはいかがでしょうか。当院でもオプションで下記項目が検査可能です。

消化器腫瘍マーカー（CEA・CA19-9・SCC）

肝腫瘍マーカー（AFP）

婦人科腫瘍マーカー（CA15-3・CA125）

膵腫瘍マーカー（エラスターゼ1）

前立腺腫瘍マーカー（PSA）

肺腫瘍マーカー（CYFRA・NSE・SLX）



ご希望の方は、医師にご相談ください。

検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp